木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会　会議経過要旨

<table>
<tr><td>会　議　名</td><td colspan="3">令和５年度　木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会</td></tr>
<tr><td>日　　時</td><td>令和６年３月１９日（火）
１４時００分～１５時１０分</td><td>場　　所</td><td>木津川市役所
４階　会議室４－４</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出　席　者

■ 出 席 者
□ 欠 席 者</td><td>委　　員</td><td colspan="2">【第１号】
■中村　裕彦委員　■藤原　文野委員
【第２号】
■真山 達志委員(会長)　■今里 佳奈子委員(副会長)
【第３号】
■市川 浩之委員　■森川 泰行委員　■中﨑 鉄也委員
□鍵谷 康裕委員　■冨田 嘉彦委員　□姜 京希委員
□松尾 有基委員　□佐脇 貞憲委員　■西村 正子委員
■三上 かず子委員　■川崎 あき委員　■河合　智明委員
■浦辻 克碩委員　■松本 藍委員　□大倉 竹次委員
■松永 弘道委員</td></tr>
<tr><td>事 務 局</td><td colspan="2">舩岡政策監、茅早マチオモイ部長、阿部マチオモイ部理事兼デジタル戦略室長、西村学研企画課長、松下学研企画課主幹、吉田学研企画課課長補佐、河野デジタル戦略室係長</td></tr>
<tr><td>議　　題</td><td colspan="3">１．開会
２．議事
・パブリックコメント結果及び市の考え方について
・第３回木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会（1 月 23 日開催）での意見及び対応について
・若者会議（2 月 4 日開催）での意見について
・今後のスケジュールについて
３．その他
４．閉会</td></tr>
<tr><td>会議結果
要　　旨</td><td colspan="3">１．開会
事務局から開会を宣言した。

２．議事
・会議録の署名委員として冨田委員を指名した。
・パブリックコメント結果及び市の考え方について
木津川市人口ビジョン（中間案）・木津川市デジタル田園都市構想総合戦略（中間案）及び資料２木津川市人口ビジョン（案）・木津川市デジタル田園都市構想総合戦略に係るパブリックコメント実施結果（提出意見及び市の考え方）に基づき事務局から説明があった。
・第３回木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会（1 月 23 日開催）での意見及び対応について
木津川市人口ビジョン（中間案）・木津川市デジタル田園都市構想総合戦略（中間案）及び資料３木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会における意見（1 月 23 日開催）に基づき事務局から説明があった。</td></tr>
</table>

	・若者会議（2月4日開催）での意見について 資料４若者会議（高校生／大学生・社会人）開催報告に基づき事務局より説明があった。 ・今後のスケジュールについて 資料に基づき事務局から説明があった。 ４．その他 ・なし ５．閉会
会議経過要旨 ◎会長 ○委員 →事務局	１．開会 会議結果要旨のとおり開会した。 ２．議事 パブリックコメント結果及び市の考え方について 【主な意見・質疑等】 質疑なし 第３回木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会（1月23日開催）での意見及び対応について 【主な意見・質疑等】 ○基本計画を作って、微に入り細に入り項目を挙げて、その一つ一つの項目に対してKPI評価指標を立てて、達成度とかを数字的に表すということに対して疑問を感じる。行政は数値結果を見て判断していて、現場が見られていないと前回申し上げたはずだが、その意見はこの資料3では取り上げられていない。その辺はどうなのか。 →前回委員会でも回答したが、取組みに対して進捗をはかるために、見える化できる数値KPIを設けている。また、総合戦略を作るにあたってはKPIを設けることが必須となっているため、数値目標をなくしてしまうことはできない。これまでも、数値が達成できたから「目標達成」で終わりとは考えていない。 ○例えば、「地域公共交通ネットワークの確保」として「公共交通年間利用者数（年間）を2022年1,212万人から28年度1,400万人にする」という数字が書いてあるが、その根拠とか、それぞれの項目によって別々のいろいろな理由が介在しているにも関わらず、意味のない数値目標の達成を令和10年度の数字が並べられている。この数字の意味やその根拠は、どこでどういうように市役所内の部署が検討して出しているのか、プロセスが全く見えてこないので、議論しようにも、数字を見て、「こんなものですか、これはちょっときついな」とか、その程度の議論しかできない。私だけかもしれないが、それはどうなのか。 ◎今のご意見は、KPIの種類、項目としての妥当性と、項目の目標値の妥当性の両面があるかと思う。ある特定の政策目的を達成できているか見る上で、KPIとして選んだ指標が適当なのかどうか、これは非常に難しいし、一つの

	数値で表すのはそもそも無理があるのは、一般的に考えてもすぐにわかることだ。そういう限界があることは間違いない。ただ、何らかの数値を考え、一番適切なものは何かを考えなければならないが、それを考えること自体をいままでやっていなかった。つまり、自分たちが取り組んでいる仕事が数字としてどういう形で現れるかということはあまり考えず、やるべきことをやっているという、ただその事実だけでずっと進んできたのを、結果を確認するために、何か指標を定めるという発想を導入した点では意味があると思う。しかしそれ以上の意味が現時点であるかというと、まだ十分ではないというのは、おっしゃる通りだと思う。 目標値として設定した数値の算定根拠がどうなっているのか、プロセスはどうなのかという点だが、木津川市役所内で実際にどういう議論がされたかは私にはわからない。一般論として言えば、今の数字がこの数字だから、５年後１０年後はこのくらいにするのがいいだろうということだと思う。この数値は上げなければいけないか、維持しなければいけないか、下げなければいけないかは当然あり、どこまで上げるかは、シミュレーションをしたり、様々な分析モデルを使って、計算したらできないこともないだろうが、実際に総合戦略をつくるにあたって、その作業を全部やるとなると、そこまではできないというのが実態だろう。しかし、先ほども言った通り、目標を定めて達成しているか、それを満たすような取組みになっているか、行政活動全般に導入するという意識改革の効果と、もう一つは非常に現実的だが、総合戦略をつくる目的の大きな部分は、国からの交付金をもらうのに前提条件であるということ。国の定める総合戦略の様式として KPI を定めておかなければならない。KPI なしでは済まされない。KPI のない総合戦略を作っても半分つくる意味がなくなる。総合計画があるのにあえて総合戦略を作るのは、大きな部分には地方創生の形での交付金、補助金を獲得する前提条件をまず用意して、そのうえで色々な取組みを進めていくという現実的な要請もある。 KPI を定めても意味がないから、これを取ってしまってもいいという議論は最初から成り立たない。限界もあるし、無理もあるが、今までの取組み、活動の実績を普通にやればこれくらい、もう少し頑張ればこれくらいと、エイヤかもだが、その中には行政で培われた経験から、頑張ればこれくらい行けるという数字が定められていると思う。すべてがエイヤではなく、統計的に検討してこれくらいの伸びが期待できるというものもある。今言ったことのすべてが当てはまるわけではないが、その前提で KPI を捉えてもらえたらと思う。 ○KPI という結果が出てくる過程において、それぞれの部署で、目標に向かった施策立案、それに対する地域への話し合い、公表、交流など、どのように動いていくのか、動いた結果がこの数字になったという、市役所内のまた住民との間での過程で、どういう話し合いが行われ、どういう困難があったかということを、この評価の間に、各部署が一言でもよいので、重要業績評価指標の前か後に、各部署の感想、取り組みの内容を入れていただくのが非常に見やすいし、市民が見ても理解が深まるのではないか。それを考えていただければ、という意見だ。 ◎今のご意見の趣旨を、この総合戦略の中に今から入れるのは難しいが、総合

	戦略は作ったらそれで終わりではなく、決まった後は、それに基づいていろいろな活動をして、年度ごとに評価もする。KPI として設定した数値は評価対象になり、達成度がどうか、順調に進んでいるかが検討される。その際に、なぜこの数字が伸びないのか、あるいは伸びたのかなどの検討はされるので、その中で行政として活動の仕方・手段・方法がいいのか悪いのか、あるいは行政の活動の努力が足りないのか、市民の理解が得られていないのかなど、色々な原因を分析することになる。最初の総合戦略もそうだが、そもそもこの KPI でよいのかの疑問も途中で出てくるので、見直しの際に KPI を変更することもある。総合戦略を見直す時に、前回の時にはこの KPI を使ったが本来の活動の成果を見るには KPI を変えたほうがいいというような検討も行われる。ご発言の趣旨は、進捗評価の際に取り入れて、進捗評価は市民に公表もするので、この KPI に対して行政がどんな活動して、どんな評価しているか、今後どうしようとしているのかを知ってもらって、それに対して意見を述べていただくという形で反映できればと思う。 ○前回の AI の話を総合戦略に盛り込んでいただいた。この分野で木津川市が最先端を走る必要はないが、技術革新はすごいので、その進捗にアンテナをはって、他の地域よりは少し先に進めていただければ、農業でも観光でもいろんな場面で有利になると思うので、努力していただきたい。 ◎AI やデジタルの分野に限らず、他と横並びではなく、一歩先んずる取組みをしていただきたい。特に AI やデジタル分野は、学研都市に位置する市なので、全国平均よりは前に進んでいることが期待されるし、市民のイメージもそうだと思う。そこは特に頑張ってもらいたい。今の発言を議事録に残して、関係部署に十分に伝えていただきたい。 ○東京国立博物館の「京都・南山城の仏像」展が、関東にこれほど響いているとは知らなかったが、南山城展が気になって現地を見たいということで、案内の問い合わせがあった、どうやってガイドしようかと困った。海住山寺の住職も言っていたが、木津川市は文化財があちこちに飛び飛びにあって、見て回るのが結構難しい。今回は海住山寺と浄瑠璃寺に絞って、片道はタクシーをチャーターして行った。その時に、もう一度来て、残りも見たいと希望を強く言われた。タクシーで回ったら大変な金額になる。木津から海住山寺に行くだけでも 3,000 円だった。途中、コミュニティバスで遠回りもしたが、禅定寺にも行きたいと言われると、ちょっと難しいとしか言いようがなかった。その時に、旅行会社に提案したらどうか、ツアーを作って秋に１回春に１回やると提案して、募集してもらって、行きたい人が行けるようにならないか、そういうことがあればもう一回来たいと言われた。とてもいい所で面白い所で、どこでも歴史物語ができる木津川市なので、何回も来たいと思いを持たれるのだと改めて感じた。 今回のこととはちょっと違うが、東京で物産展をしているという話も、まち・ひと・しごと委員会の中で、以前詳しく説明してもらったが、そこでもあまり宣伝できないという認識を持った。旅行業者と一緒になってやるとかあるのでは。観光振興の促進を、内部で色々おもてなしをしようとしているのはわかるが、それをやっても、人が来なかったらできないこともあるので、もっと広くに集める方法があったら、知っていただく機会になっていいのでは

	ないかと思う。私は木津川市と南山城地域が気になっているので発言した。 →大きな枠組みでいくと、P55 基本目標２「新しい人の流れをつくる」の施策方向性②「歴史文化遺産等の地域資源を活用した観光振興の促進」にかかわるかと思う。旅行商品の関係は、お茶の京都 DMO があるので、そこと引き続き連携していかないといけない。京都府と話す機会があり、恭仁京で発掘体験という企画商品は、関東からも結構なお金を出してでも来られたとのことだった。ニッチな需要はあるということは、DMO と一緒にやることでわかってきている。地域にはいいものがたくさんあるので、活かしていきたい。今回の取組みであれば、数値目標の観光入込客数だけではかりきれるものでもなく、観光消費額にもかかわるので、指標についても、複数の視点を見ながら客観的に分析をしていかないといけないと感じた。 若者会議（2 月 4 日開催）での意見について 【主な意見・質疑等】 ○小・中学生を対象にした、このような意見会はないのか →若者会議の実施に関連しては、P30 の将来人口推計の特徴で、20－29 歳にかけて、大学進学や就職のタイミングで転出される方が多いことがわかってきたということがある。こういう年代の方に木津川市への想いを作ってもらうことが重要ではないかということで、プレという形で若者会議を企画した。高校生･大学生･社会人の 30 歳未満の方を対象に取り組みをやっていきたい。総合計画では、中学生にもアンケートを取っている。それぞれの機会を通じて、取組ごとで目的をもってやっていきたい。 ◎総合戦略は人口ビジョンと連動するもので、人口をいかに維持するか、転入・転出のバランスをいかにとるかということで、ポイントを絞るところも出てくると思う。木津川市で落ち込みの激しい世代に、まずいろいろ意見を聞くのは、総合戦略とのかかわりでは優先順位が高いかと思う。 ○けいはんな万博のことで色々な方の話を聞く機会があるが、若い学生さん、高校生も含めて、発表の場がなくて、そういう場をしつらえてほしいという話を２、３の大学から聞いたことがある。いまこれは行政が進めるのに、いろいろな方の意見を吸い上げているのだが、吸い上げているだけだと活性化が進まないと思うので、全部行政に反映できるかというとなかなか難しいだろうが、若い人なりの解釈をもって発表する、多少固い議論だけでなく、自分たちの活動や趣味も含めて発表の場を、例えば木津川アートのようなものと重ね合わせながら、若者とアートのコラボレーションのような形で、ゆくゆくは文化的なものにつながるようなことを発展形として考えられるのではないか。感想だが、そのような方向性もあるかと思う。 →若者会議はプレということで、今回は意見を自由に話す場というところから始めた。結構高校生の発言の中で、こどもを育てるのにお金がかかる、自分が大学に行くのも仕事をするのも不安で、結婚まで思いがいかないという生の声を聴いた。 これからの若者会議は、会議の進め方からテーマを出していこうと考えている。毎年違う形で運用していくことになるかと思う。その年その年で関わる

	学生さんの思いや社会人の方の思いを１年間でまとめていくことで、そこでまとめたものを次の年度に活かしていくような形にしていければと思っている。集まったメンバーが自分たちの活動の場がない、文化的なことを開催したいという意見が出れば、そういう方向に一緒に取り組んでいく方向に、新しい魅力も生まれてくるのではないかと思っている。 〇今回、木津川アートでは、高校生が発案して発表の場があった。今後も、小学校の部、高校生の部など、ワークショップで交流しながら、発表の場はあると思う。 ◎若者が集まって意見を言ってもらうだけでなく、それをいかに発展させるかが大事なので、今後、若者会議の発展・充実について、いろいろご検討いただければと思う。 〇結婚・出産・子育てに関わる意見で、ボール遊びの禁止の公園の意見が出ている。ボール遊び禁止の公園が結構多くて、別の案を出してほしいと、意見があるが、これについては子育て世代のお母さんも思っており、担当部署に若者の意見を伝えてもらいたい。 交通に関わる意見で、若者会議でもバスなど交通手段がほしい、本数が少ないという、実際に利用している若者の意見がここでも出ている。P65 の KPI の公共交通ネットワーク確保で、目標としては利用者数増やすとなっているが、南加茂台エリアではバスの路線は減らして、そこをどうやって増やそうと思っているのか。学校に通うのに不便と若者が言っている中で、どう利用者数を増やす目標につなげていくのか、施策をしっかり考えてほしい。高齢者になって免許返納ができない、近くに買物に行けないからバスを利用しようと思ってもバスがなくなるから、免許を返せない。どの世代から見ても問題点になっている。商工会主催で明石市の前泉市長の話を聞いたとき、高齢の聴衆からの意見で「バスがなくなる、木津川市はなくしている」と言っていて、泉さんは、土地土地で違うが、明石市では、大きいバス、小さいバス、停留所で人が待っているのか、利用者のニーズをつかんで、利用する人数でバスの大きさを変えたり、ルートや停留所もその時々にいくつか試しながら、必要な所に必要な形で届くように、トライアンドエラーで、市役所職員や地域に住んでいる人を巻き込んでやっていった。子育て以外のそういうこともやったということだった。やり方はあると思う。取り組んでいるところの事例を聞きながら、やっていっていただけたらと思う。総合戦略の方向性としても「公共交通ネットワーク確保」がある。また、若者会議でも意見が出てきているので、交通の便ではしっかり考えていただけたらと思う。 →ボール遊び関係は担当課に伝えている。バス関係は当課が担当課だが、南加茂については、バスの別の協議会があり、そこで大学の交通関係の先生にも入ってもらい検討している。よく頂く意見として「いつかは乗る」という考え方がある。なくなったら困るけど、今は乗らない、しかし、今まで１０回車で移動しているなら、１回２回はバスに乗るようにしてもらい、住民自らの行動を変えないと厳しいという話をしている。バス１路線を維持するのに２～３千万円の赤字を市が負担することになり、それが何路線もあると大変な金額になる。乗りたいけど乗っていない人もいると思うので、困っているのはどこなのかという声を拾っていかないといけないと話をしている。

	今後のスケジュールについて 【主な意見・質疑等】 →委員会については今回が最後になる。３月２２日に庁内の本部会議で本日の意見を報告し、最終議論ののち３月末に策定となる。その間に、事務局で文言・体裁の修正を加えて完成としたい。 ◎３月末に総合戦略が策定されることになる。文言等の一部の修正があることを了承いただいたうえで、本推進委員会として戦略案について承認するということでよろしいか。 →（異議ない） ◎異議なしということで、本推進委員会としては、本日の案をもって了承いただいたものとする。 ３．その他 【主な意見・質疑等】 質疑なし ４．閉会
	署名欄 創生総合戦略推進委員会　議長 創生総合戦略推進委員会　委員